

科目名	専門演習 I B	
担当者	長瀬 二三男 / NAGASE, Fumio	
科目情報	法律 / 必修 / 後期 / 演習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	演習参加者それぞれが、民法の判例の中から関心のあるテーマを選び、その争点について研究発表して、発表者以外の演習参加者とともに議論する。
	到達目標	関心のある民法上の争点について調査・研究することにより、資料探索能力・研究能力を養うとともに、活発な議論を通じてディベート能力を高めることを目標とする。
授業計画	<p>前期の専門演習 I Aで決定した発表順にしたがって研究発表を行い議論していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 発表順の確認と後期の諸注意事項 (2) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (3) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (4) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (5) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (6) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (7) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (8) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (9) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (10) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (11) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (12) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (13) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (14) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 (15) 前期に決定している発表順にしたがって研究発表を行い議論 	
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者は、あらかじめレジュメを作成して配布すること。 ・発表者以外の演習参加者も発表者のテーマについて調べ、積極的に議論に参加して意見を述べられるようにしておくこと。
	事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートをもとに議論した内容を整理しておくこと。
使用教材・参考文献	【教】星野英一ほか編『民法判例百選 I（第5版）』有斐閣2006年、星野英一ほか編『民法判例百選 II（第5版）』有斐閣2006年、水野紀子ほか編『家族法判例百選（第7版）』有斐閣2008年	
成績評価方法と基準	<p><評価方法>研究発表50%、ディベート50%で判定する。</p> <p><評価基準>事案の争点を把握し、他の演習参加者と議論をすることができれば合格とする。</p>	
備考	夏休みにはゼミ旅行、春休みにはゼミ合宿を、それぞれ2泊3日（参加費用は各25,000円程度）で行い、新ゼミ生歓迎会、卒業生送別会なども行う。	